

## マックスフォード

赤ちゃんをいちばんに、そして社会にもやさしく。—— ベビーコンシャスケア

## BABY CONSCIOUS CARE

## 取扱説明書

- セーフティシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守ることはできません。
- ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みになってから正しくお使いください。
- 本書は、セーフティシートをお使いになる車の中に保管してください。
- セーフティシートを他のお客さまにお譲りになる場合は、必ず本書も併せてお渡しください。
- 安全運転を励行してください。



386023



運輸大臣認定



## もくじ

■安全のためにお守りください	1	リクライニングのしかた	6
走行前は次のことを確認してください	2	ヘッドレストの取り扱いかた	7
■緊急の場合には	2	フットレストの取り扱いかた	7
■ご使用の前に必ずお読みください	3	肩部ベルト通し穴位置の決めかた	8
次のようなお子さまに使っていただけます	3	幼児用ベルトの長さ調整	8
こんな特長があります	3	■後向きの取り付けかた	9
このように取り付けできます	3	■前向きの取り付けかた	10
取り付けできない座席もあります	4	■ロックングクリップの取り付けかた	11
■各部のなまえ	5	こんなときには	12
■車に取り付ける前に	6	■お手入れの方法	13
お子さまの座らせかた	6		

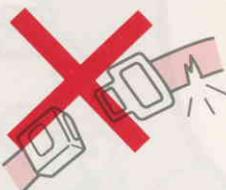
# 安全のために必ずお守りください

このたびはセーフティシートをお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。安全にお使いいただくため、この取扱説明書をよく読み、注意事項を必ずお守りください。本書に記載した取り扱いかたでお使いにならないと、大きな事故につながる可能性があります。

- 衝突事故や製品を落下させたなど、1度でも強い衝撃を受けたセーフティシートは、外見上の破損がなくても絶対に使用しないでください。本来の機能をはたさず、大きな事故につながります。



- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。



- 車に取り付けるときは、必ずシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。



- ロッキングクリップは、セーフティシートを固定する以外の目的で使用しないでください。



- 小さなお子さま(体重9kg未満)を乗せるときには、必ず安全のためセーフティシートを後向きにして使用してください。

9kgまで



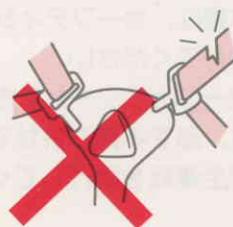
- セーフティシートを改造したり、本書に記載されていない取り扱いかたで使用しないでください。



- 車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにセーフティシートがしっかりと固定できないときは、使用しないでください。



- 幼児用ベルトに傷が付いたときは、必ず新しいベルトに取り替えてください。(お買い上げの販売店または弊社のお客さま相談室にお問い合わせください。)



- 車の中のセーフティシート以外の目的には使用しないでください。



- 車の座席にクッション、座ぶとんなどを敷いたままでセーフティシートを取り付けしないでください。



- 前座席にセーフティシートを後向きに取り付けて助手席側のドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。



- 2ドアや3ドアの車で、後座席に人が乗る場合には、緊急時の脱出のためセーフティシートを助手席に取り付けしないでください。



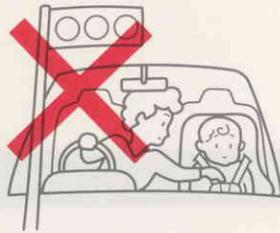
● お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差し込み金具がバックルからはずれていないことを確認してください。



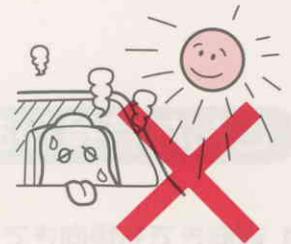
● お子さまが乗っていないときでも、セーフティシートは必ずシートベルトで常に固定しておいてください。万一の事故のとき、乗車されている人に傷害を与えることがあります。



● 走行中は、セーフティシートの操作や調整をしないでください。また、同乗している他のお子さまがセーフティシートをいじらないようにしてください。



● セーフティシートに直接日光が当たると、本体やバックルなどが熱くなることがあります。お子さまを座らせる前に各部にさわって、やけどをしないことを確認してから使用してください。夏場や日差しの強いときは日陰に駐車するか、本体に布などのカバーをかけてください。



● お子さまがセーフティシートの上で立ったり、中腰になったり正座をしたりしないように注意してください。



## 走行前は次のことを確認してください

幼児用ベルトが正しい肩部ベルト通し穴の位置にセットされていること

差し込み金具は「カチッ」と音がするまでバックルに差し込まれていること



セーフティシートが車の座席にしっかりと固定されていること（本体を前後にゆすり、ご確認ください）

幼児用ベルトにねじれやたるみがないこと

シートベルトのタングプレートが「カチッ」と音がするまでバックルにしっかりと差し込まれていること

### 緊急の場合には

事故など緊急時は、あわてず保護者の方が胸あてパッドのバックルボタンを押し、差し込み金具を引き抜き、幼児用ベルトをはずして、すみやかにお子さまをセーフティシートから降ろし車外に脱出させてください。



# ご使用の前に必ずお読みください

## 次のようなお子さまに使っていただけます

下記の3つの条件すべてを満たすお子さまにご使用いただけます。

- **体重** 7kg以上～18kg未満(参考年齢 生後4カ月頃から4歳頃まで)
- **身長** セーフティシートに座らせたとき、**後頭部が背もたれ、またはヘッドレストの上から出ない**お子さま
- 一人座りのできるお子さま

## こんな特長があります

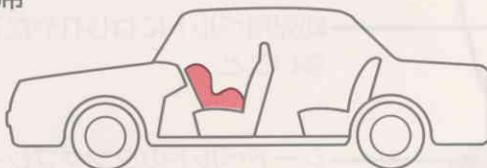
- 1 前向きでも後向きでも取り付けは簡単セッティング
- 2 ワンタッチ操作の幼児用ベルトで、お子さまの乗せ降ろしがやさしくなりました
- 3 シートベルトをゆるめずにそのままリクライニング(リクライニングレバー付き)
- 4 お子さまのホールド性と快適性を考慮したELR付き5点支持ベルトのパッド方式を採用
- 5 宙ぶらりんの足をサポートするフットレストを採用
- 6 背の高いお子さまの後頭部を守るヘッドレストを採用
- 7 運転席からのドアミラー視界を妨げない本体形状

## このように取り付けできます ★安全性の高い後座席でのご使用をおすすめします。

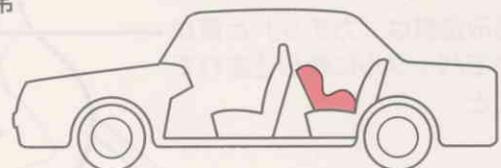
セーフティシートを車に取り付ける場合、図のような4つの方法があります。  
お子さまの体重に合わせてお使いください。

- **後向き** 体重7kg以上～10kg未満のお子さま

前座席



後座席

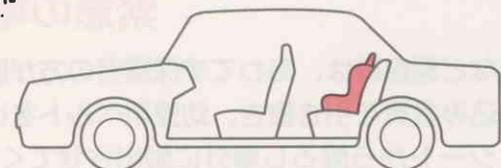


- **前向き** 体重9kg以上～18kg未満のお子さま

前座席

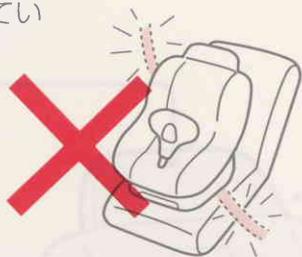


後座席



## 取り付けできない座席もあります

- シートベルトのついていない座席



- シートの中央が極端に盛り上がり、取り付けたときに不安定になる座席

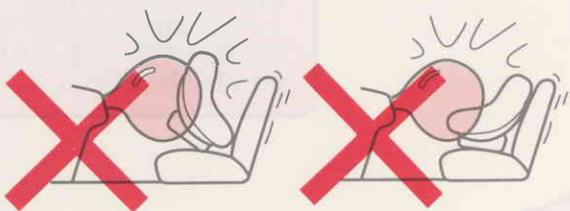


- シートベルトが座席の間から出ている座席



- エアバックの付いた座席

エアバックを装着された座席では使用しないでください。前方向からの衝突時、セーフティシートがエアバックの作動により大きな衝撃を受け、危険な状況になります。



- パッシブシートベルトの付いた座席



- 進行方向に対して横向き、または後向きの座席



- 座席の奥行きが45cm以下の場合(後向きには取り付けられません)



- ※セーフティシートのシートベルト通し穴位置よりも前方向からシートベルトが出ている座席

### Q&Aコーナー

Q/エアバックとは

A/前方向からの衝突時に、座席前部に内蔵のエアバックが瞬間的に膨張し、とくに顔面などへの衝撃を緩和する装置。

Q/パッシブシートベルトとは

(オートマチックシートベルト)

A/車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられる。



# 車に取り付ける前に

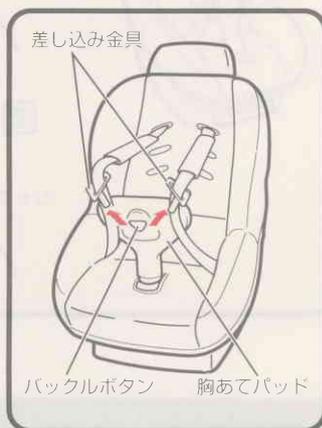
## お子さまの座らせかた

### ご注意

- 胸あてパッドは、ねじったり、折り曲げたり、乗ったりしないで、ていねいに扱ってください。
- 車に取り付ける前に、バックルの留めかたとはずしかたを確認し、幼児用ベルトの通し穴位置、長さを適正な位置に合わせてください。
- 安全を確保するため、図のような座らせかたは絶対におやめください。



- ①バックルボタンを押して差し込み金具を抜き、胸あてパッドを手前にたおして、お子さまを座らせます。



- ②お子さまの左右の腕を幼児用ベルトに通し、ベルトがねじれていないことを確かめて、左右の差し込み金具をバックルに「カチッ」と音がするまで差し込みます。



## リクライニングの取り扱いかた (車のシートベルトをゆるめずにリクライニングできます)

### ご注意

- セーフティシートを後向きに取り付けたときは、リクライニング操作はできません。
- リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。

- ①セーフティシートの座席の下にあるリクライニングレバーを手前に引き、リクライニング角度を調節してください。(3段階)

- ②レバーから手を離し本体を前後にゆすり、しっかりロックされた状態であることを確認してください。

- 本体がリクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1~2段階リクライニングさせるとできます。この場合、車の背もたれをセーフティシートに接するように再度起こしてください。
- 車の背もたれがリクライニングできない場合は、セーフティシートのリクライニングが使用できないことがあります。

※車に取り付けていない状態で操作する場合はベースに片手をかけ、もう一方の手でリクライニングレバーを引きながら、本体を手前に引いて調節します。



# 車に取り付ける前に

## ヘッドレストの取り扱いかた

### ご注意

- ヘッドレストは、セーフティシートを前向きに取り付けたときのみ使用してください。  
(後向きに取り付けた場合は、ヘッドレストがフロントガラスなどに接触する可能性があります危険です)
- 車の背もたれとセーフティシートのヘッドレストが当たる場合は、ヘッドレストをはずしてご使用ください。
- はずしたヘッドレストは、車の室内に放置しないでください。
- セーフティシートを持ち運ぶときには、ヘッドレスト部をつかまないでください。

### ① ヘッドレストのはずしかた

図のように、セーフティシートとヘッドレストのすきまにある脱着レバーを外側に押しながら、ヘッドレストを上を持ち上げます。

### ② ヘッドレストの取り付けかた

図のように、ヘッドレストのシャフトを、シャフトの溝が左側にくるように本体の上面にある穴に差し込み、「カチッ」と音がするまで押し込みます。



## フットレストの取り扱いかた

### ご注意

- フットレストは、前向きに取り付けたときのみ使用してください。
- フットレストを引き出し、先端部と車室内のダッシュボードや前座席の背面との距離を15cm以上空けて使用してください。(15cm以上とれない場合はフットレストを使用しないでください)
- 後座席に取り付ける場合は、前座席を前にスライドさせてご使用ください。
- フットレストは、お子さまをセーフティシートに座らせてから手前に引き出して使用してください。
- フットレストを、乗り降り時のステップとして使用しないでください。
- フットレストの上で、立ったり、座ったり、とびはねたりしないでください。

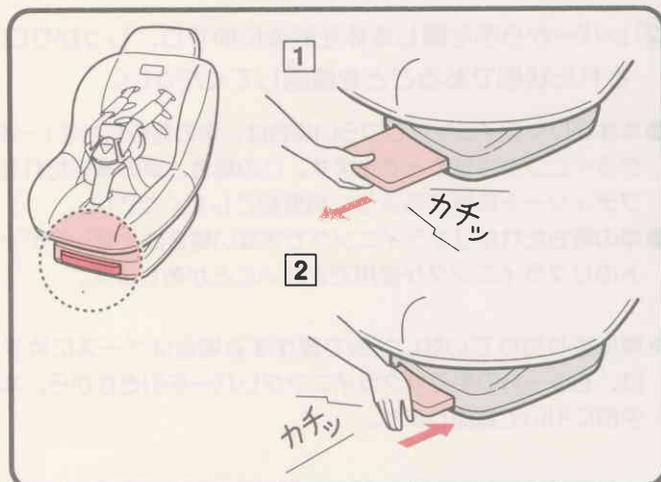
### ① フットレストの引き出しかた

図のように、フットレストの裏側に指をかけ「カチッ」と音がするまで手前に引き出してください。

### ② フットレストのしまいかた

「カチッ」と音がするまで、フットレストを手のひらで押し込んでください。

※指をはさまないように十分ご注意ください。



## 肩部ベルト通し穴位置の決めかた

### ご注意

- セーフティシートを取り付ける前に、必ず肩部ベルト通し穴の位置を決めてください。
- 幼児用ベルトは、着座したお子さまの肩のすぐ上の肩部ベルト通し穴に通します。
- 幼児用ベルトがお子さまの両肩にフィットしていないと、衝撃が加わったときに肩からはずれ、セーフティシートとして機能しません。



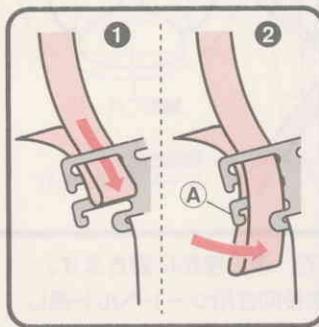
### 調整の手順



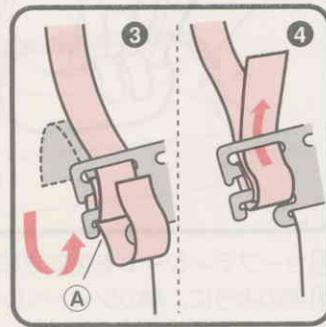
① 幼児用ベルトをベルト調節金具から引き抜いてははずします。



② 幼児用ベルトを、肩部ベルト通し穴から引き抜き、お子さまにあった肩部ベルト通し穴に入れ直します。



③ 図のように、二つ折りにした幼児用ベルト(ベルトの端を後側にして)をベルト調節金具の本体側から通し、Aに引っ掛けます。

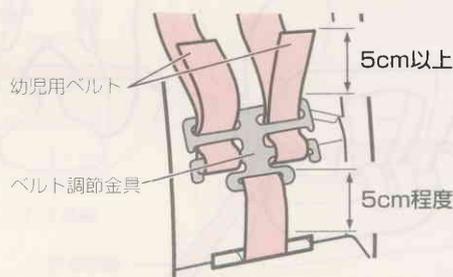


④ ベルトの端を折り返してAに通し、手前から溝穴に差し込みます。最後に幼児用ベルトにねじれないことを確認してください。

## 幼児用ベルトの長さ調整

### ご注意

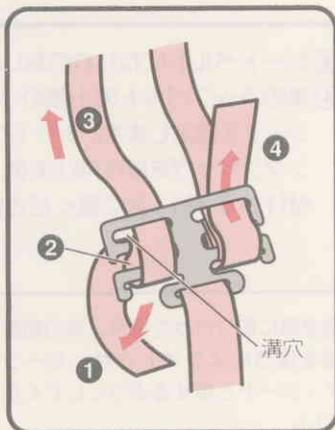
- ベルト調節金具を引き上げすぎると、幼児用ベルトの巻きとり調節機能が働かなくなります。幼児用ベルトの長さを調整するときには、図のようにベルト調節金具を5cm程度引き出した位置でセットしてください。
- 幼児用ベルトがベルト調節金具からはずれることを防ぐために、図のように必ず幼児用ベルトを5cm以上余裕をとってセットしてください。



### 幼児用ベルトをゆるめるときには

① 幼児用ベルトを幼児用ベルト溝穴からはずし、②にたるみをもたせ、③の→方向にベルトを引っ張ります。

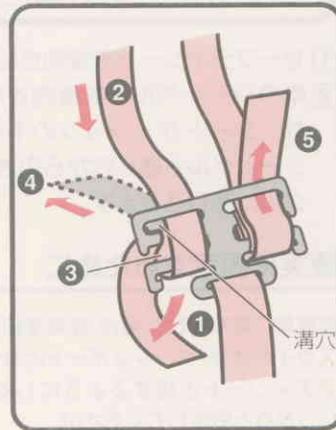
調整後は、必ずベルトの端を折り返し、④のように溝穴に通してください。



### 幼児用ベルトを短くするときには

① 幼児用ベルトを溝穴からはずし、②の→方向にベルトを引き、③にたるみをもたせて、④の→方向に引っ張ります。

調整後は、必ずベルトの端を折り返し、⑤のように溝穴に通してください。





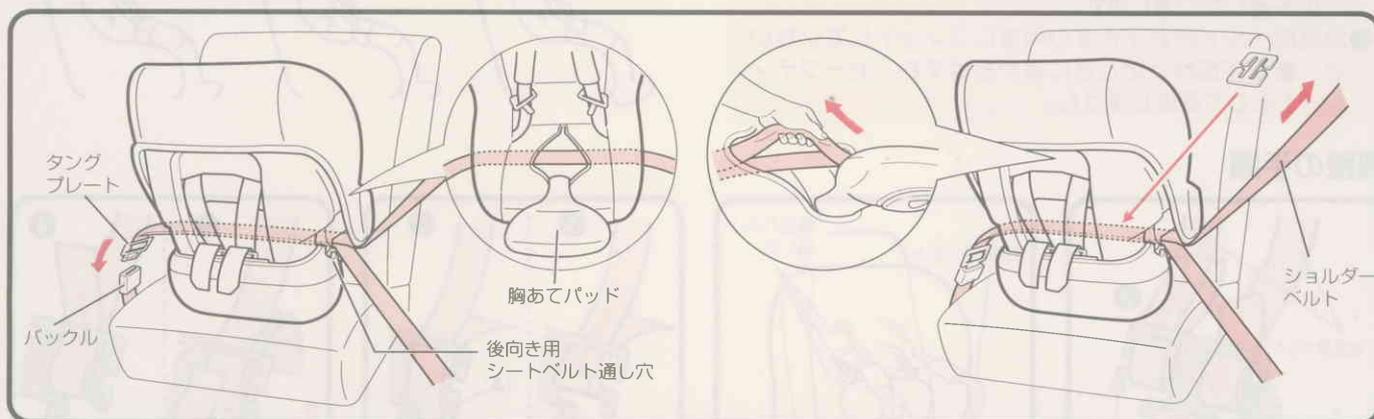
# 後向きを取り付けかた

## ご注意

- 体重が7kg～10kgのお子さまを乗せるときは、セーフティシートを後向きに取り付けて使用してください。
- 体重が9kg～18kgのお子さまを乗せるときは、セーフティシートを前向きに取り付けて使用してください。
- セーフティシートが車の座席にしっかり固定できない場合は、使用しないでください。

## 3点式シートベルトの座席の場合

セーフティシートのリクライニングを寝かせた状態で取り付けます。

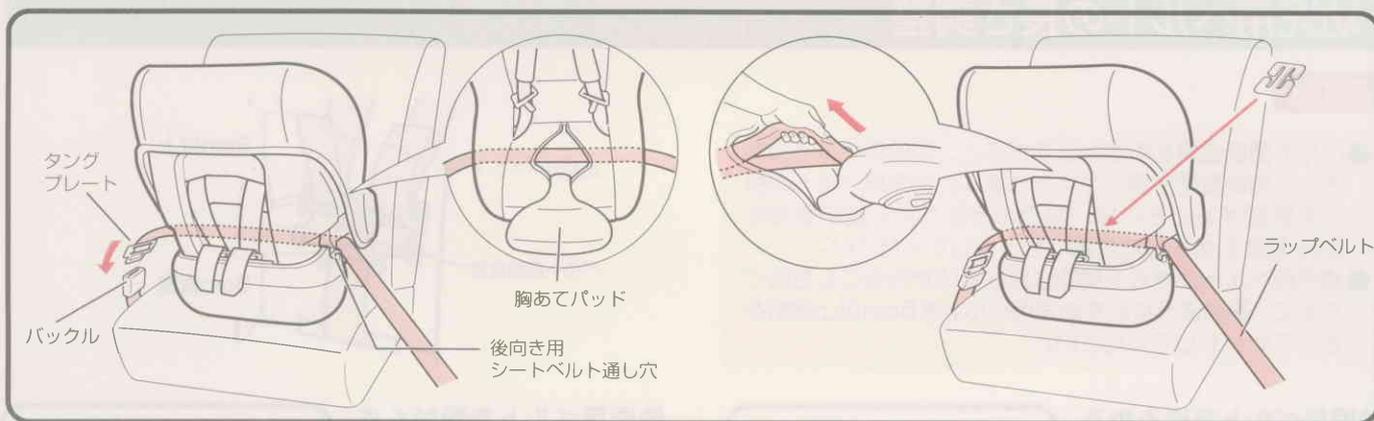


- ① セーフティシートを後向きにして、車の座席に置きます。
- ② 図のように、車のシートベルトを後向き用シートベルト通し穴から入れ、シートクッションの下を通して、反対側の後向き用シートベルト通し穴から引き出し、タングプレートをバックルに差し込みます。

- ③ シートベルトにねじれのないことを確認します。
- ④ 車のショルダーベルト(肩にかかるシートベルト)を強く引いてセーフティシートを固定し、シートクッションのすきまからロッキングクリップを取り付けます。(「ロッキングクリップの取り付けかた」P11をご覧ください)

## 2点式シートベルトの座席の場合

セーフティシートのリクライニングを一番寝かせた状態で取り付けます。



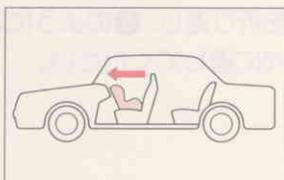
- ① セーフティシートを後向きにして、車の座席に置きます。
- ② 車のシートベルトを後向き用シートベルト通し穴から入れ、シートクッションの下を通して、反対側の後向き用シートベルト通し穴から引き出し、タングプレートをバックルに差し込みます。

- ③ シートベルトにねじれのないことを確認します。
- ④ 車のラップベルトの上側のベルトを強く引き、セーフティシートを固定します。シートベルトがゆるむ場合は、ロッキングクリップを取り付けます。(「ロッキングクリップの取り付けかた」P11をご覧ください)

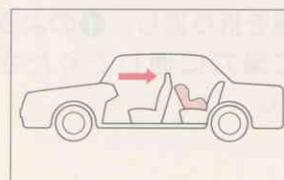
## 確実に固定するために

前座席に取り付けた場合、座席を前にスライドさせ、ダッシュボードとセーフティシートと接するようにして、しっかりと固定してください。

※車により、ダッシュボードに接しない場合があります。



後座席に取り付けた場合、車の前座席を後ろにスライドさせ、セーフティシートと接するようしてください。





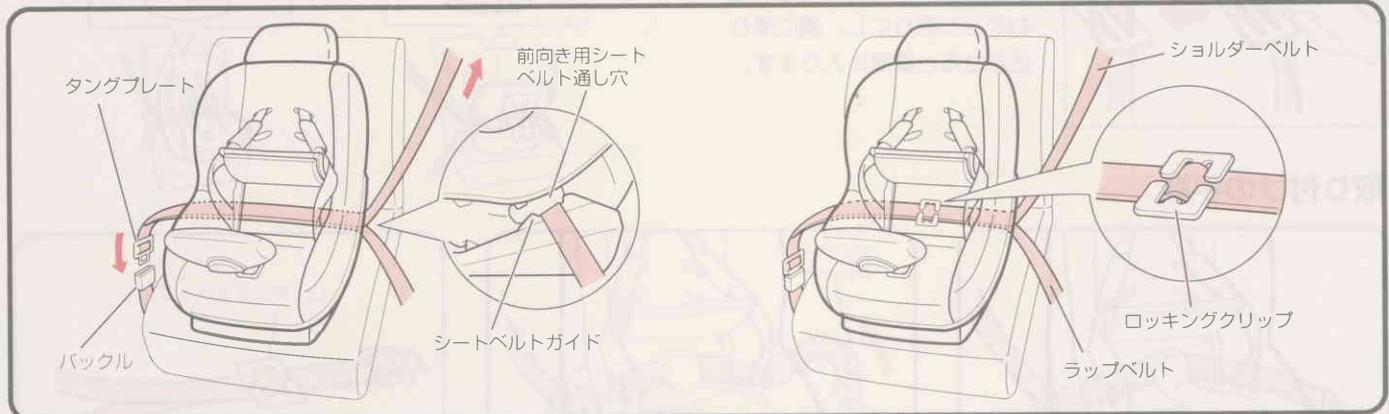
# 前向き取り付けかた

- 後向きに取り付けるときは、リクライニングを一番覆っている状態にして使用してください。
- 後向きに取り付けるときは、必ずヘッドレストをはずしてください。
- 安全性の高い後座席での使用をおすすめします。
- 車のシートとセーフティシートのヘッドレストが当たる場合はヘッドレストをはずして使用してください。

- 取り付け終了後、セーフティシートを前後にゆすり、大きくくらつかないことを確認してください。
- セーフティシートをエアバックの付いた座席に取り付けしないでください。万一の場合危険です。
- セーフティシートを取り付けて助手席側のドアミラーの視界が妨げられる場合は、必ず後座席に取り付けてください。

## 3点式シートベルトの座席の場合

セーフティシートのリクライニングを立てた状態で取り付けます。



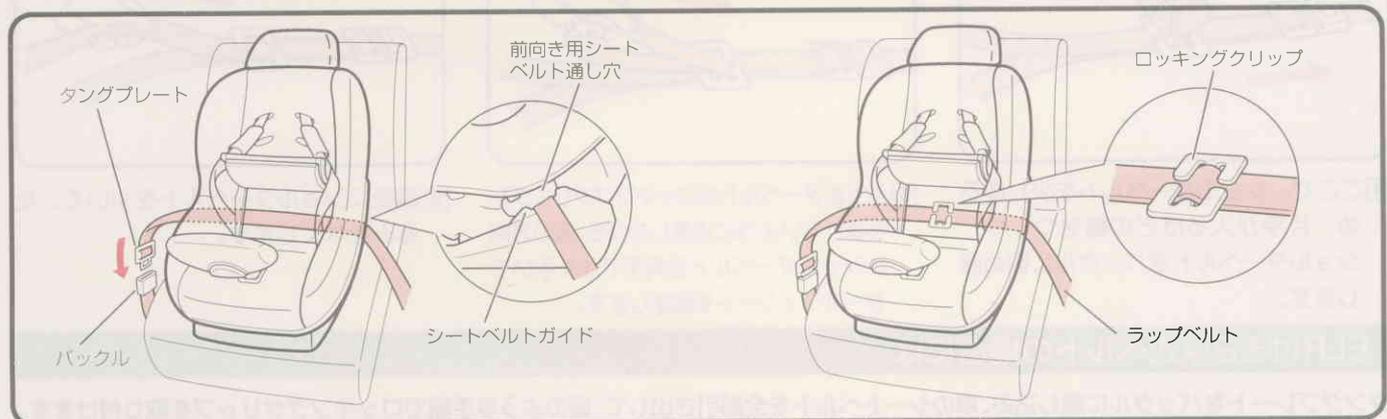
- 1 セーフティシートを前向きにして、車の座席に置きます。
- 2 車のシートベルトを、シートベルトガイドに合わせて前向き用ベルト通し穴に通し、反対側の前向き用シートベルト通し穴から引き出します。(このときシートクッションの下にあるフタを開け、ベルトにねじれがないことを確認してください)
- 3 シートベルトをシートベルトガイドに合わせ、タングプレー

トをバックルに差し込みます。

- 4 セーフティシートのベースをしっかりと座席の奥につけ、車のショルダーベルトを強く引いてセーフティシートを固定し、車のシートベルト(ショルダーベルトとラップベルト)にロッキングクリップを取り付けます。(「ロッキングクリップの取り付けかた」P11をご覧ください)

## 2点式シートベルトの座席の場合

セーフティシートのリクライニングを一番立てた状態で取り付けます。



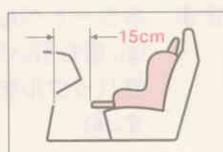
- 1 セーフティシートを前向きにして、車の座席に置きます。
- 2 車のシートベルトを、シートベルトガイドに合わせて前向き用ベルト通し穴に通し反対側の前向き用シートベルト通し穴から引き出します。(このときシートクッションの下にあるフタを開け、ベルトにねじれがないことを確認してください)
- 3 シートベルトをシートベルトガイドに合わせ、タングプレー

トをバックルに差し込みます。

- 4 セーフティシートのベースをしっかりと座席の奥につけ、ラップベルトの上側のベルトを強く引いてセーフティシートを固定します。ベルトがゆるむ場合はロッキングクリップを取り付けます。(「ロッキングクリップの取り付けかた」P11をご覧ください)

## フットレストをお使いになる場合

フットレストを引き出し、先端部と車室内のダッシュボードや前座席の背面との距離を15cm以上空けて使用してください。(15cm以上とれない場合はフットレストを使用しないでください)



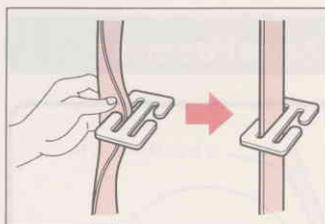
## 車のバックルがシートベルトガイドに当たり、不安定な場合

「こんなときは」(P12)をご覧ください。

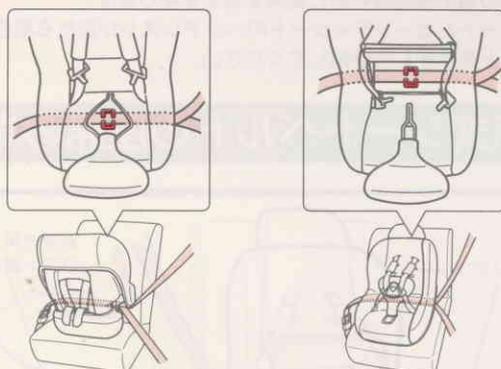
# ロッキングクリップの取り付けかた

## 3点式シートベルトの場合には

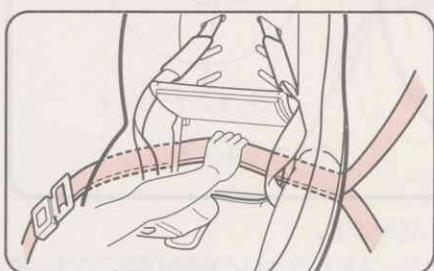
- 右図で示した場所にロッキングクリップを取り付けます。



※ロッキングクリップにシートベルトを通すときは、左図のようにシートベルトを2枚重ねで二つ折りにし、溝に滑り込ませると簡単に入ります。



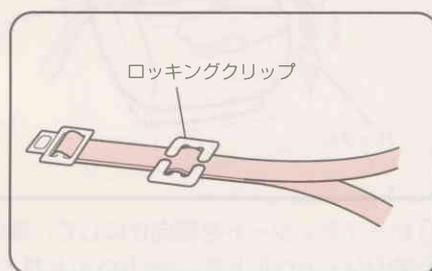
## 取り付けの手順



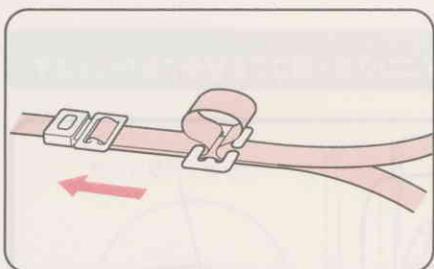
- 1 車のシートベルト(腰にかかるシートベルトと肩にかかるシートベルト)をずれないようにいっしょにつかみます。



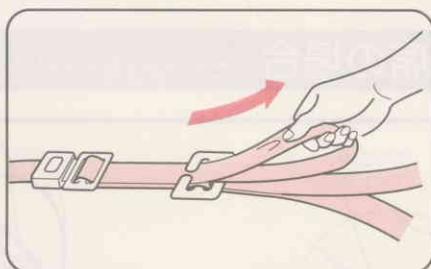
- 2 その状態のまま、1度タングプレートをはずします。



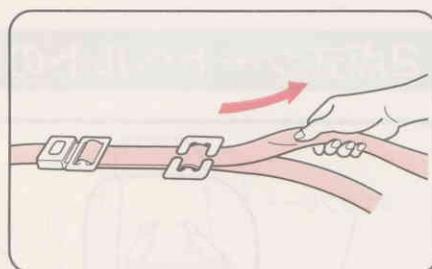
- 3 図のように、ロッキングクリップをシートベルト(ショルダーベルトとラップベルトを2枚いっしょ)に取り付けます。



- 4 ここで、ショルダーベルトを少しゆるめ、片手が入るほどの輪をつくり、ショルダーベルトをバックルに留め直します。



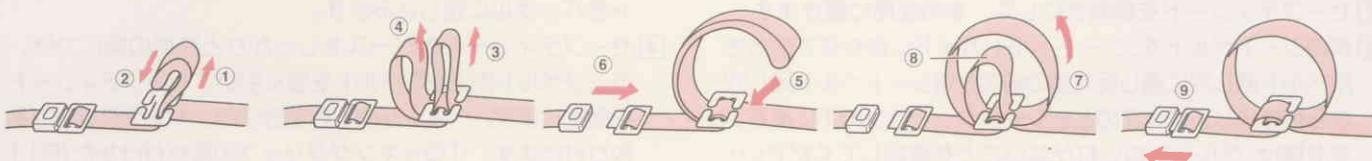
- 5 ショルダーベルトがロッキングクリップから抜けられないように注意しながら、図の方向にショルダーベルトを両手で強く引いてセーフティシートを固定します。



- 6 最後にショルダーベルトを引いて、たるみをなくします。

## ELR付き2点式ベルトの場合には

タングプレートをバックルに差し込み、車のシートベルトを全部引き出して、図のような手順でロッキングクリップを取り付けます。



ロッキングクリップにシートベルトを通します。

③→方向に強く引き、次に上にたるむベルトを④→方向に引きま

バックルにタングプレートを差し込んだままシートベルトを引き⑤、最も引いた状態で1度バックルをはずします。⑥

シートベルトをロッキングクリップにかけ、⑦→方向に強く引き⑧

最後に、本体を座席に押しつけながらタングプレートをバックルに差し込みます。⑨

## シートベルトの種類と取り付け上の注意

シートベルトの種類によって取り付けかたが違います。ご注意ください。

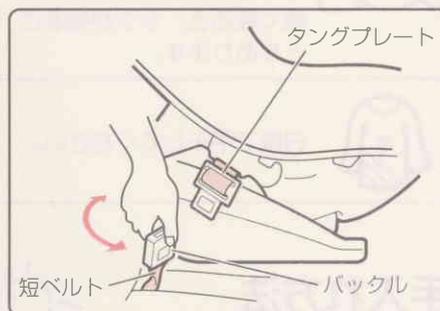
シートベルトの種類	特徴	取り付け上の注意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ELR付き3点式シートベルト</li> <li>●ELR付き2点式シートベルト</li> </ul> (ELRとは緊急ロック式ベルト巻き取り装置のことです)	通常は、ゆっくりと引くとベルトが自由に入入りし、急ブレーキや衝突などの衝撃を感知したときだけ固定機能が働き、ベルトが固定されるシートベルトです。	3点式2点式ともに、 <b>必ずロックングクリップを取り付けてください。</b>
●A/ELR付きシートベルト (A/ELRとはALRとして使用できるELR巻き取り装置のことです)	通常はELRベルトとして機能しますが、ベルトを全部引き出すとELR機能が解除され、戻す方向にベルトが自動的に締まるシートベルトです。また、ベルトをすべて引き戻したときにはELR機能に戻ります。	<b>1度シートベルトを全部引き出してから</b> 、セーフティシートを固定してください。ロックングクリップがなくても固定できます。
●ALR付きシートベルト (ALRとは自動ロック式巻き取り装置のことです)	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出されなくなるシートベルトです。	セーフティシートを固定するのに十分なシートベルトを引き出して固定してください。ロックングクリップがなくても固定できます。
●NLR付きシートベルト (NLRとは非ロック式ベルト巻き取り装置のことです)	ロック機能のない巻き取り装置のことで、任意の位置で長さを調節して使用します。	セーフティシートに合わせてシートベルトの長さを調整し、固定してください。必要に応じて、ロックングクリップを使用してください。
●マニュアル式シートベルト	巻き取り装置の付いていないシートベルトのことです。	

※シートベルトの種類は、ご使用の車の取扱説明書をご覧ください。

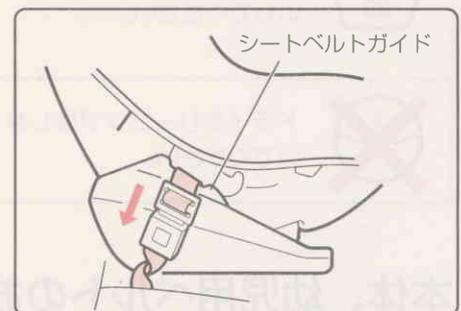
## こんなときには

### ●車のシートベルトのバックルが、セーフティシートのシートベルトガイドの角に当たってしまう

短ベルト(バックルの付いている車のシートベルト)がシートベルトガイドの角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。



① タングプレートをはずしてバックルを持ち、短ベルトに数回ひねりを加えて短くします。



② もう1度タングプレートを差し込み、固定します。

# お手入れの方法

## シートクッションのはずしかた

- ① 左右の幼児用ベルトをベルト調節金具からはずし、肩部ベルト通し穴から引き抜きます。  
「肩部ベルト通し穴位置の決めかた」(P8)をご覧ください。
- ② ヘッドレストをはずします。  
「ヘッドレストの取り扱いかた」(P7)をご覧ください。
- ③ 幼児用ベルトからベルトカバー、差し込み金具をはずします。胸あてパッドカバーは、裏側のマジックテープをはがしてはずします。  
※ 差し込み金具は、左右を確かめて、胸あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくと、取り付けるときに簡単にできます。
- ④ セーフティシートの外側にある4カ所のフックをはずします。
- ⑤ セーフティシートのフタを開けて、内側4カ所のフックをはずします。
- ⑥ 胸あてパッドのところからシートクッションをはずし、そのまま上に引き上げます。
- ⑦ ヘッドレストカバーは、図のように下面のマジックテープをはずし、ヘッドレストカバーを片側からはずします。



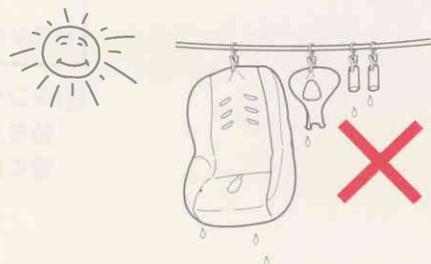
## クッション、ベルトカバー、胸あてパッドカバー、ヘッドレストカバーの洗いかた

●洗濯時は下記の項目を守ってください。

 <p>液温は30℃を限界とし手洗いしてください。</p>	 <p>手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。強く絞ると、シワが残ることがあります。</p>	 <p>塩素系漂白剤は使用しないでください。</p>
 <p>ドライクリーニングはしないでください。</p>	 <p>日陰で平干してください。</p>	 <p>アイロン掛けはしないでください。</p>

## 本体、幼児用ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。



## シートクッションの取り付けかた

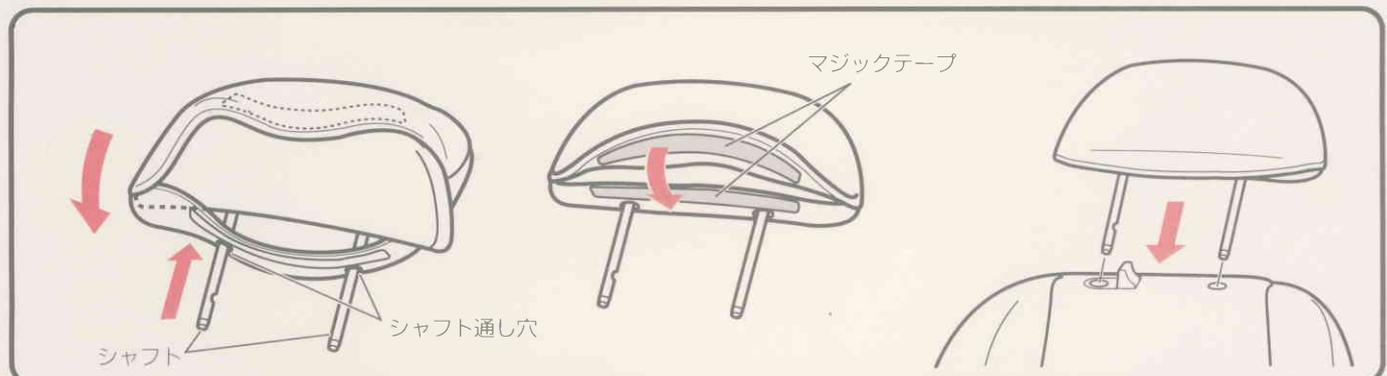


- 1 リクライニングを寝かした状態にし、図のように幼児用ベルトを腰部ベルト通し穴に入れ、本体の下を通し、反対側の腰部ベルト通し穴から引き上げます。
- 2 シートクッションを本体の背の部分にかけ、胸あてパッドをシートクッションの中央の穴を広げて通し、シートクッションを全体にかぶせます。
- 3 幼児用ベルトをシートクッションの腰部ベルト通し穴から表側に引き抜き、左右の幼児用ベルトが同じ長さになるように調節します。このとき、幼児用ベルトにねじれないようにしてください。



- 4 シートクッション中央のフタを開け、内側のフック4カ所とシートクッションの外側にあるフック4カ所を留めます。
- 5 胸あてパッドにその胸あてパッドカバーをかぶせ、幼児用ベルトに差し込み金具、ベルトカバーの順で通します。このとき差し込み金具の左右表裏を確認してください。
- 6 幼児用ベルトを肩部ベルト通し穴に通し、調節金具に取り付けます。(調節金具への取り付けは「肩部ベルト通し穴位置の決めかた」P8をお読みください)

## ヘッドレストカバーの取り付けかた



- 1 図のように、ヘッドレストカバーのシャフト通し穴にシャフトを通し、カバーの片側をかぶせます。
- 2 反対側のカバーもかぶせ、マジックテープを留めます。
- 3 本体に差し込みます。(「ヘッドレストの取り扱いかた」(P7)をお読みください)